

| | | | |
|----------------------------------|--------|-----------------------------|--------------------------|
| 委員会の名称 | | | |
| ・あま市小中学校あり方課題別検討委員会（部活動改革） | | | |
| 委員会開催日及び場所 | | | |
| ・開催日 令和7年12月25日（木） | | | |
| ・開催場所 市役所 2階 B会議室 15:00から16:30まで | | | |
| 参加者 | | | |
| 委員 | 鈴木 達見 | 至学館大学 教授 | |
| | 山本 周平 | アスフィール株式会社 | |
| | 乙部 祐樹 | あま市PTA連絡協議会会長 | 欠席 |
| | 熊崎 尚樹 | あま市PTA連絡協議会副会長 | 欠席 |
| | 齋藤 由紀代 | 正則小学校長 | |
| | 石垣 智美 | 七宝中学校長 | |
| | 石黒 えりか | 部活動顧問代表（七宝中学校：女子ソフトテニス部顧問） | |
| | 前田 純子 | 部活動顧問代表（七宝北中学校：女子バレー部顧問） | |
| | 高橋 勝利 | 部活動顧問代表（美和中学校：柔道部顧問） | |
| | 宮崎 勇二 | 部活動顧問代表（甚目寺中学校：男子ソフトテニス部顧問） | |
| | 武内 皓道 | 部活動顧問代表（甚目寺南中学校：柔道部顧問） | |
| | 内山 伸也 | 生涯学習課長 | |
| | 林 孝之 | スポーツ課長 | |
| 事務局 | 伊藤 克仁 | あま市教育委員会 | 教育長 |
| | 鎌倉 崇志 | あま市教育委員会 | 教育部長 |
| | 鈴木 智水 | あま市教育委員会 | 指導主事 次長 |
| | 杉藤 真康 | あま市教育委員会 | 学校教育課長 |
| | 水越 彰洋 | あま市教育委員会 | 指導主事 統括主幹 |
| | 高橋 美果 | あま市教育委員会 | 学校教育課 主幹 |
| | 伊藤 有為 | あま市教育委員会 | 学校教育課 課長補佐 |
| | 籠島 篤司 | あま市教育委員会 | 学校教育課 部活動地域連携コーディネーター |
| | 黒瀬 晃太 | あま市教育委員会 | 教育総務課 主任 |
| | 小出 敏夫 | あま市教育委員会 | 生涯学習課 主幹 |
| | 松山 力 | あま市教育委員会 | 生涯学習課 係長 |
| | 水野 晃寛 | あま市教育委員会 | スポーツ課 課長補佐 |
| | 小鹿 篤史 | あま市教育委員会 | 教育総務課長 |
| | 野々目 清司 | あま市教育委員会 | 教育総務課 課長補佐 書記 |
| 傍聴人 | なし | | |

| 会議録 | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>ただいまより、あま市小中学校あり方課題別検討委員会（部活動改革）を開催いたします。</p> <p>会議資料の確認をお願いします。事前にお送りした資料をご確認ください。不足がある場合は、お申し出ください。</p> <p>本日の資料は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1：名簿及び配席図 ・資料2：国及び市の方向性について ・資料3：地域連携モデル事業の現状と課題 ・資料4－1：部活動地域連携地域展開推進計画（案）（全10ページ） ・資料4－2：地域クラブ活動に関する認定制度イメージ案の概要 ・資料4－3：部活動指導員の概要 ・資料4－4：令和8年度事業計画 <p>また、本日追加で鈴木委員と山本委員からの資料も配布しております。</p> <p>なお、本委員会にあま市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、議事録を市公式ウェブサイトで公開するため、録音させていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿って進行いたします。はじめに、あま市教育長より挨拶を申し上げます。</p> |
| 教育長 | <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>年末のお忙しい中、また足元の悪い中、あま市小中学校あり方課題別検討委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日のテーマは部活動改革についてです。令和7年1月にも同テーマで話し合いを持ち、委員の皆様から貴重なご意見をいただきました。あま市では、今年度4月より柔道部をモデル事業として、2つの中学校で部活動指導員を配置し、地域連携を始めています。また、令和10年4月からは、土日の部活動を原則として地域クラブでの活動へ移行することを保護者にもお知らせしました。</p> <p>国においても、令和8年度から13年度までを改革実行期間として示しています。本日は、部活動の地域展開における国や市の方向性を確認し、地域連携モデル事業である柔道部の現状や課題を顧問の先生からお聞きします。それらを踏まえ、次年度からのあま市部活動推進計画、地域クラブ、部活動指導員の扱い、次年度の事業計画について事務局より提案いたします。</p> <p>委員の皆様には、あま市の部活動の地域展開をどのように持続可能で望ましいものにしていくかという視点から、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。</p> <p>なお、本日は生涯学習課長とスポーツ課長にも同席いただいています。これは、文化部の活動や、スポーツ団体、NPO法人あまスポーツクラブとの関わり、さらに部活動がスポーツ競技であることから、教育部が一体となって取り組んでいることをご理解いただきたいと思います。</p> <p>委員の皆様には、今後もお支援、ご協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p> |
| 事務局 | 委員の紹介については、時間の都合上、資料1の委員名簿をご覧くださいこと |

| | |
|------|--|
| | <p>で代えさせていただきます。</p> <p>なお、本日はあま市PTA連絡協議会の乙部会長と熊崎副会長が所用により欠席されています。</p> <p>それでは、あま市小中学校あり方課題別検討委員会要綱第6条に基づき、教育長が本委員会の議長を務めます。以降の進行は教育長にお願いいたします。</p> |
| 教育長 | <p>それでは、あま市小中学校あり方課題別検討委員会の次第に沿って進行いたします。</p> <p>説明事項</p> <p>(1) 学校における部活動改革の方向性、部活動の地域展開における国及び市の方向性</p> <p>(2) 地域連携モデル事業の現状と課題</p> <p>以上の2点について、事務局より説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>事前に送付した資料2「学校における部活動改革の方向性、部活動の地域展開における国及び市の方向性」をご覧ください。この資料では、国の示す理念、改革に係るスケジュール、国の示すポイントをお示ししています。</p> <p>国は、令和5年度から7年度までを改革推進期間、令和8年度から13年度までの6年間を改革実行期間としています。さらに、改革実行期間を前期3年と後期3年に分け、前期3年のうちに地域展開等に着手することとしています。</p> <p>市では、この前期改革実行期間において、部活動地域連携・地域展開推進計画を策定し、地域展開を進めていく予定です。資料裏面の学校から保護者向けに配布した資料にあるように、令和10年度からは現在の形での休日部活動は原則行わず、地域クラブ活動へと展開していく予定です。</p> <p>続いて、資料3「地域連携モデル事業の現状と課題」をご覧ください。今年度から実施している地域連携モデル事業は、美和中学校と甚目寺南中学校の2校の柔道部を対象に行っています。このモデル事業では、受益者負担をいただきながら、地域の指導者に部活動指導員として専門的な技術指導を行っていただいています。</p> <p>課題としては、裏面に記載していますが、部活動顧問の協力が不可欠であることと、受益者負担に対しての整理が不十分であることが挙げられます。</p> <p>今後の部活動を持続可能なものとしていくためには、これらの課題の整理が必要だと考えています。参考として、参加している部員に対して行ったアンケート調査の結果を添付していますので、ご確認ください。</p> |
| 教育長 | <p>本日は、モデル事業実施校の部活動顧問の先生に委員としてご出席いただいております。実際の現場での状況をお聞きしたいと思います。</p> <p>まずは、美和中学校の高橋先生からお話をいただきたいと思います。</p> |
| 高橋委員 | <p>現在、モデル事業参加部員数は資料3の通り、男子11名、女子4名です。実際の部員数は17名で、女子が2名多いのですが、この2名は土日にチアのクラブ活動があり参加していません。それ以外のほとんどの生徒が参加しています。</p> <p>あま市柔道会の指導者の方々と生徒たちは、もともと面識がある生徒も多く、夜のクラブ活動で関わりがあるため、信頼関係は非常に強いと感じています。指導者の方々とコミュニケーションも良好で、練習内容などの事前の打ち合わせもスムーズに行えています。</p> <p>課題としては、専門的な練習メニューは非常に助かっていますが、生徒指導の</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>面で外部指導者の方々がどこまで踏み込んでよいか難しさを感じているようです。練習参加に消極的な生徒に対しては、主に顧問である私から声をかけ、練習に誘導しています。チームの方針は基本的に生徒たちと私で決め、部活動指導員の方々にはそれに沿って指導していただいています。</p> <p>柔道特有のけがの対応についても、多くの目で見守っていただけるのはありがたいですが、顧問不在時の対応方法など、今後検討が必要だと感じています。</p> <p>また、甚目寺南中学校との練習試合を計画した際、モデル事業の参加費（後期から月額1,000円）を支払っていない生徒が参加できないという問題が発生しました。外部指導者の指導となると、このような課題も生じるため、練習試合の実施方法について検討が必要だと感じました。</p> <p>以上が現状の報告です。</p> |
| 教育長 | <p>ありがとうございました。それでは続いて、甚目寺南中学校の武内先生お願いできますでしょうか。</p> |
| 武内委員 | <p>甚目寺南中学校のモデル事業の参加部員数は4名で、実際に参加しているのは1年生3名です。全体の部員数は10名弱です。参加募集にあたっては強制せず、4月から7月までの体験期間を経て、継続希望者のみが参加しています。</p> <p>9月からの本格活動を観察して、とにかく初心者の生徒たちが指導者とともに楽しく、前向きに活動している点がメリットとして挙げられます。また、発達に特性のある生徒も多いのですが、指導者が根気強く丁寧に指導しており、毎回忍耐強く対応していただいています。アンケートは取っていませんが、参加している3名の満足度は高いと推測されます。</p> <p>一方で、課題も多く感じています。まず、費用面の問題があります。月額1,000円の参加費に対して、地域の柔道クラブに所属している生徒の二重払いの問題や、少額でも費用が発生することへの抵抗感があります。また、練習試合の際に、費用を払っていない生徒の参加について課題があります。</p> <p>活動日の設定についても、費用を徴収しているため、顧問の都合で休みにしづらくなっています。顧問の立ち位置も課題の一つです。現在は練習中も武道場にいますが、地域移行を考えると段階的に離れる必要があります。</p> <p>長期休暇中の活動、顧問と指導者の給与面での差、大会引率などの責任範囲についても今後検討が必要です。</p> <p>これらの課題に対して、顧問の立ち位置を段階的に変更したり、長期休暇中の部活動の在り方を再検討したりする必要があります。また、給与面での調整や引率業務の範囲と責任の明確化も重要です。</p> <p>これらが7、8か月間で出てきた課題と考えています。</p> |
| 教育長 | <p>ありがとうございました。顧問の先生方のお話を伺い、多くの課題が浮き彫りになったと思います。ここで、委員の皆様からご質問やご意見はございますか。</p> |
| 宮崎委員 | <p>甚目寺中学校の宮崎です。甚目寺南中学校の武内先生に質問があります。モデル事業に4名が参加されているとのことですが、平日の部活動には何名の生徒が参加していて、部活動の全体の人数は何名なのか教えてください。</p> |
| 武内委員 | <p>柔道部全体の人数は10名弱で、女子2名、男子6、7名、そのうちモデル事業参加者は4名、全体的に部員数が少ない状況です。</p> |
| 宮崎委員 | <p>モデル事業に参加していない残りの部員は、平日の部活動にのみ参加しているのでしょうか。</p> |

| | |
|------|---|
| 武内委員 | 土日の部活動は行わないため休みという形になっています。 ただし、モデル事業に参加していない生徒も、大会の参加については希望を募り、参加可能としています。 |
| 宮崎委員 | モデル事業に参加せず、土日の部活動が休みになっている生徒は、土日の部活動に参加しないことでなにか問題はありましたか。 |
| 武内委員 | モデル事業に参加していない生徒について、大きな問題は生じていません。 部活動に参加していない5～6名の生徒のうち、約半数は地域の柔道クラブに週3回程度通っていますので、保護者から地域の柔道クラブだけで十分という声があったと生徒を通じて伝えられています。 |
| 教育長 | ありがとうございます。美和中学校の部活動指導員の引率に関して、確認させていただきます。 部活動指導員は練習試合等での引率を行っていますか。現在、引率は顧問の先生が行わなければならない状況なのでしょうか。 |
| 高橋委員 | 依頼していないためわかりません。 |
| 石垣委員 | 練習試合に関して、次の点について確認させていただきたいと思います。 モデル事業参加校同士以外との練習試合を組む際の配慮事項はありますか。 モデル事業参加者と非参加者が混在している状況で、他市町と練習試合を行う際に問題は生じていませんか。 |
| 武内委員 | 練習試合について、モデル事業に参加していない上達した生徒も含めて参加させたいという希望がありましたが、部活動指導員の指導を受けるとなると市教育委員会との協議の上、参加させられないとなりました。他市町の中学校との練習試合では、このような問題が生じないと考えましたが、以降、練習試合は組んでいません。 |
| 高橋委員 | 夏休み中に大治中学校、暁中学校との合同練習に招かれる機会がありました。 モデル事業に参加している15名全員がこの合同練習に参加しました。部活動指導員の方々にも声をかけたところ、2名の方に参加していただきました。 練習の進行は主に大治中学校の先生が担当されましたが、指導員の方々は補助的な役割を果たしてくださいました。 今後、他校との活動をどうしていくのか検討する必要があると思います。 |
| 教育長 | ありがとうございます。質問がある場合は、後ほど戻って議論する機会を設けますので、時間の都合上、次の議題に進めさせていただきます。 それでは、議題4「部活動地域展開に向けた検討事項」に入ります。 (1) 部活動推進計画について、事務局からの説明をお願いいたします。 |
| 事務局 | あま市部活動地域連携・地域展開推進計画についてご説明いたします。本計画は、令和4年のスポーツ庁・文化庁、及び令和5年の愛知県から示された部活動の地域連携や新たな地域クラブのあり方に沿って作成しました。計画策定にあたり、生徒・保護者へのアンケートと顧問教員への聞き取りを実施しました。また、今年度は柔道部で地域連携モデル事業を実施し、その状況を踏まえて今後の部活動地域連携及び地域展開の進め方を検討しました。計画期間は令和8年度から令和10年度までの3年間で、この期間中に休日の部活動改革を進めていく予定です。 続いて、地域クラブについてご説明いたします。令和7年9月に、スポーツ庁・文化庁より地域クラブ活動に関する認定制度のイメージ案が示されました。今後、ガイドラインが改訂・発表される予定です。これに合わせて、本市 |

| | |
|------|--|
| | でも認定に関する仕組みづくりを進めてまいります。 |
| 事務局 | <p>部活動指導員の配置について、資料4-3をご覧ください。国の方針では、部活動指導員は校長の指示により業務に当たる学校の職員として校務分掌に位置づけることが求められています。現在は講師のような形で報償費をお支払いしていますが、令和8年度からは市の会計年度任用職員として雇用する方向で整理を進めています。これにより、引率や生徒指導にもご協力いただくことになります。なお、現在の謝礼と来年度からの給料額は同額とします。</p> <p>部活動指導員の配置は令和8年度、9年度の2年間を予定しており、その後は地域クラブの立ち上げ等をお願いしたいと考えています。</p> <p>令和8年度の事業計画については、資料4-4をご覧ください。主な内容は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 部活動指導員の配置拡充（美和中学校剣道部、全5中学校卓球部） 2. あまスポーツクラブへ委託し、地域クラブによる陸上クラブと短期講座ダンス教室の実施 3. 部活動地域連携・地域展開推進協議会の設置（市民や地域団体関係者との意見交換） <p>これらの計画は令和8年度当初予算の議決が条件となります。令和9年度以降も、組織体制の見直しを含め、地域展開に向けた取り組みを充実させる予定です。令和10年4月からは現在の形での休日の部活動は原則行わず、地域クラブ活動へ展開していく予定です。</p> |
| 教育長 | <p>説明は以上となります。事務局としても、この取り組みが非常に高いハードルであることを実感しておりますが、令和10年4月を目処に進めていきたいと考えております。</p> <p>委員の皆様には事前に資料をお送りし、目を通していただいているかと存じまので、ご質問やご意見を頂戴したいと思います。先ほどの議論の続きでも構いません。</p> <p>名簿順でご発言をお願いしたいと思います。まずは鈴木委員からお願いいたします。質問でも結構ですので、座ったままでご発言ください。</p> |
| 鈴木委員 | <p>大府市での経験から、あま市で議論されている課題は他地域でも同様に直面しているものだと認識しています。</p> <p>大府市では運営委員会を設け、率直な意見交換の場を定期的で開催していました。参加者は現場の教員、市教育委員会担当者、コーディネーターで、最大10人程度が月1回、年間9回程度集まり、課題の洗い出しと意見交換を行いました。</p> <p>このような頻繁で率直な意見交換の場が課題解決に向けて重要だと考えています。現在挙がっている課題はどの地域でも自然に浮上するものです。今後は行政と現場の教職員が十分な時間をかけて意見をすり合わせていくことが重要だと感じました。</p> |
| 山本委員 | <p>弊社は現在、県内17の自治体、全国では約200の自治体と連携し、地域展開の支援を行っています。その中で、地域展開の方法は自治体によって多様であることがわかりました。</p> <p>例えば、豊田市では自治体直営型を採用し、自治体がすべてのクラブを直接運営しています。一方、名古屋市では多数の個別クラブを認定し、それらを受け皿としています。大府市では管理団体への委託方式を採用するなど、様々なア</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>アプローチが存在します。あま市においても、最適な方法を具体化していく必要があると感じています。</p> <p>質問させていただきたい点があります。先ほど、認定クラブの要件を定める一方で、あま市の総合型クラブへの委託も検討されているとのことでした。この二つの方向性の関係性について、お考えをお聞かせください。</p> <p>例えば、NPO 法人あまスポーツクラブが統括団体となり、個別クラブを認定するパターンや、あまスポーツクラブにクラブ管理のすべてを委託するパターンなど、様々な可能性が考えられます。個別クラブの認定と総合型クラブへの委託について、どのように整理されているのでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>現在、あまスポーツクラブのマネージャーとの協議を進めています。その中で、あまスポーツクラブの所属団体を増やし、それらを受け皿として活用する方向性が検討されています。具体的には、あまスポーツクラブが市の認定条件と同様の基準で審査を行うことで、あまスポーツクラブが認定したクラブを、市の認定クラブとして扱う仕組みを考えています。</p> |
| 齋藤委員 | <p>本日の会議に参加し、現状について詳しくお聞きして、様々な課題が見えてきたと感じています。我々教員にとって、部活動が当然のように行える時代から、大きな変革期を迎えていることを実感しました。働き方改革と同時に進めることの難しさを強く感じています。</p> <p>教員として、子どもたちが放課後に熱心に部活動に取り組む姿を見ると、さらに指導したくなる気持ちがあります。一方で、地域への移行を考えると、どこかで線引きをする必要があり、その難しさを感じています。子どもたちと関わると、どうしても深く関与してしまうのが人間の性質だと思います。</p> <p>今後の課題として、教師の仕事と地域への移行をどのようにバランスを取るか、教員のマインドセットをどう変えていくかが重要だと考えています。同様に、保護者の意識改革も必要です。学校の先生に任せたい、学校で活動してほしいという気持ちや、学校での活動に対して費用を支払うことへの抵抗感など、保護者の意識をどのようにリセットできるかが大きな課題だと感じました。</p> <p>また、指導者が休日に引率する場合の勤務体制など、様々な課題が含まれています。令和10年に向けて進めていくためには、関係者全員のマインドセットの変革が必要不可欠だと感じています。</p> |
| 石垣委員 | <p>会議を通じて、いくつかの懸念点が浮かび上がりました。</p> <p>まず、来年度から本格的に始まる卓球部の外部指導について考えました。現在も外部コーチが指導していますが、これまで無償だった土曜日の指導に費用が発生することになります。同じ指導者による指導であるにもかかわらず、突然費用が発生することに対して、保護者の理解をどのように得るかが課題です。特に、経済的に厳しい家庭の子どもたちが参加を躊躇したり、諦めたりすることで、子どもたち同士の人間関係にも影響が出る可能性を懸念しています。</p> <p>また、月額1,000円程度の費用であっても、兄弟がいる家庭では負担になる可能性があります。さらに、同じ学校内で部活動によって費用の発生に差が出ることも問題です。例えば、ソフトテニス部では外部コーチによる無償の指導が継続される一方で、卓球部では費用が発生するといった状況が生じます。このような違いが保護者間で話題になり、学校内で混乱を招く可能性があります。理想的には全ての部活動で同時に新制度を導入できれば良いのですが、現実的</p> |

| | |
|------|---|
| | には難しいでしょう。来年度からの導入に向けて、保護者への説明方法や公平性の確保など、多くの課題があると感じています。 |
| 教育長 | ありがとうございました。私たちも本当にその辺はつらい思いはしております。 それでは続いて、石黒委員。今話にあったソフトテニスで外部コーチに入っていることについて、また、違うのであれば別の話でも結構ですが、ご自分の部活のことも含めて、ご意見ご質問あればお願いします。 |
| 石黒委員 | 先ほどの校長の発言にあったソフトテニスについて、男子部の状況であることを補足します。私は女子ソフトテニス部の顧問を務めており、現在外部コーチは導入していません。 美和中学校と甚目寺南中学校の先生方のお話を伺い、もし自分が担当する女子ソフトテニス部に部活動指導員が配置された場合を想像してみました。両校の部活動指導員が素晴らしい方々だというお話でしたが、全ての顧問と部活動指導員の関係が上手くいくかどうかは疑問です。考え方や指導方針の違いから、大人同士の関係性も懸念事項の一つだと感じました。 私自身、部活動への思い入れが強い方なので、指導方針の違いを調整することは難しい課題になるかもしれないと感じています。 また、美和中学校の高橋先生に質問があります。甚目寺南中学校の先生は部員10名中4名が参加しているとおっしゃっていましたが、美和中学校では資料に15名と記載されています。実際の部員数は何名でしょうか。 |
| 高橋委員 | 実際の部員は17名です。うち女子2名の生徒が参加せず、ということです。 |
| 石黒委員 | 甚目寺南中学校の先生はさっき土日も今は自分も参加している状態とおっしゃっていましたが、美和中学校ではいかがですか。 |
| 高橋委員 | 自分が参加しています。 |
| 石黒委員 | 土曜日の部活動や長時間の練習が技術の向上に大きく寄与すると考えられますが、実際に、土日の部活動に部活動指導員の方と一緒に練習している生徒と、平日の練習にのみ参加している生徒との間で、実力に差が出てきているでしょうか。 |
| 高橋委員 | 大分差はできていて、初心者の生徒が多いのですが、何ヶ月間で小学校の時からやっていた生徒達よりも強くなっている生徒も出てきたので、差はあるかなと思います。 |
| 石黒委員 | 平日の練習しか参加できない生徒と、土日の練習もお金を払って参加できる生徒とで、どんどん実力の差が開いていって、最後の中学校総合体育大会で、平日の練習しか参加できない生徒は選手の登録人数の関係で出場できない、となってくるのかな、と今後心配になりました。以上です。 |
| 前田委員 | 美和中学校と甚目寺南中学校の状況をお聞きし、部活動の今後について懸念が深まりました。本校では外部指導員を導入しておらず、地域連携に向けて受け皿探しを進めていますが、保護者主体のクラブチームと顧問の指導方針の不一致、既存のクラブチームと部活動の練習時間の重複による生徒の取り合いなどの課題があがりました。教職員の間でも、働き方改革による負担軽減への期待と、子どもたちの成長を見守りたいという思いの間で葛藤があります。 外部指導員の導入に関しては、新たな負担が生じる可能性や、若手指導員と生徒との関係調整の難しさなど、様々な課題があります。これらの問題から、教員の中には全てを自分たちで担当したいという意見や、逆に完全に手を引きた |

| | |
|------|--|
| | <p>いという意見も出てくるかもしれません。</p> <p>本校特有の課題としては、学校規模が小さいために部活動の運営が難しい点があります。現在7つの部活動がありますが、部員数が少なくチーム編成が困難な状況です。他校との合同部活動も検討していますが、生徒の抵抗感も強く、実現には課題が多いです。</p> <p>また、地域の受け皿に関しても、特定の競技では選択肢が限られているという問題があります。</p> <p>これらの課題を踏まえ、今後の部活動の在り方について、さらなる検討と対策が必要だと感じています。</p> |
| 教育長 | <p>確認ですが、市内中学校の部活動は希望制で加入しない生徒もいると聞いていますが間違いはないですか。生徒の取り合いとはどういうことですか。</p> |
| 前田委員 | <p>取り合いという言い方が悪かったかもしれませんが、生徒数が少ない上、希望制のため、集団競技だとチームが組めない部活が増え、生徒同士で誘い合ったり、地域のクラブと練習日が重なったりと、生徒も顧問も悩むといったことが起こっている現状があります。</p> |
| 高橋委員 | <p>石黒先生と前田先生のご意見を伺い、いくつかの点について考えさせられました。</p> <p>まず、私自身が柔道未経験であるため、部活動指導員の技術面やスポーツ精神の指導は非常に助かっています。しかし、柔道の専門知識を持つ顧問が指導したい場合、部活動指導員との方針の違いから対立が生じる可能性があると感じました。現在、美和中学校では部活動指導員の方々に多くを任せていますが、今後地域連携が進む中で、学校の方針と部活動指導員の方針の調整が必要になるかもしれません。</p> <p>次に、平日の部活動に関する課題があります。現在、平日の活動時間が10～15分程度と限られており、生徒のモチベーション低下が見られます。土日に部活動指導員と充実した活動ができることから、平日の部活動を軽視する傾向が生徒や一部の保護者に出ています。</p> <p>さらに、平日は顧問が指導し、土日は部活動指導員が指導するという現在の体制では、平日の活動から生徒が離れていく可能性があります。実際に、平日は他の高校で練習し、土日のみ部活動に参加する生徒もいます。</p> <p>これらの状況から、今後は平日と土日の活動のバランスや連携をどのように図るか、また生徒の活動意欲をどのように維持・向上させるかが課題になると予想されます。</p> |
| 宮崎委員 | <p>私の意見として、平日は学校の教員が指導し、土日は地域の指導者が指導するという現在の方向性には課題があると考えています。同じ団体に対して二人の指導者が関わることで、ダブルスタンダードが生まれる可能性があり、これは生徒にとって好ましくない状況だと思います。指導方針について話し合いを持つことは理想的ですが、現実的には十分な時間を確保することが難しいと予想されます。</p> <p>この問題の解決策として、大府市の例を参考に、土日の部活動を原則なしとしてしまえば、平日は学校の部活動、土日・休日は地域の活動と明確に区分することで、生徒にとっても指導者にとっても分かりやすく、活動しやすいのではないのでしょうか。</p> <p>受け皿となる地域のクラブが不足している問題については、これまで中学校の</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>部活動が存在していたために地域のクラブが育成されてこなかった面もあると思いますし、今後は各地域のスポーツ協会や関連団体と連携し、新たなクラブの設立や既存のクラブへの参加を促進するなどの方法があると思います。</p> <p>そうすると、役割分担が明確になり、より効果的な活動が可能になるのではないかと考えています。</p> |
| 武内委員 | <p>先ほどの議論で触れられた金銭面の問題について、補足と質問があります。</p> <p>まず、土日の練習に参加している3名の生徒についてですが、全員が初心者であるため、少しずつ上達しているものの、大きな技術的向上は見られません。むしろ、参加していない上級者の生徒たちとの練習時間が減少していることにより、初心者の生徒たちの成長につながっていません。</p> <p>現在の3名は、よく言えば緩く活動していますが、上級者の先輩のような目標が身近にないため、切磋琢磨する機会や意欲が十分に得られていない状況です。</p> <p>一方で、活動に対して費用を徴収することには賛成です。質問ですが、令和10年以降の指導者への報酬について、指導者への報酬は市から支出されるのでしょうか。それとも、生徒から徴収する月額1,000円で賄うことを想定しているのでしょうか。現在の状況では、月4回の指導に対する報酬を確保することはできません。また、市内の全ての部活動、特に少人数の部活動も含めて考えた場合、令和10年以降に市の補助なしで成立するのか疑問です。</p> <p>市からの財政的支援の有無や程度について、現時点での方針や検討状況をお聞かせいただけますでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>先生のおっしゃられる通り、市が長期的に部活動指導員の費用を負担し続けることは、財政上困難であると認識しています。ある自治体が全ての部活動を部活動指導員による指導に切り替えた際、必要な予算が3,000万円を超えた例があります。部活動指導員の予算には国や県からの補助金も含まれますが、市の負担も相当額に上ります。</p> <p>このような財政状況を踏まえ、部活動指導員の配置を継続することは難しいと判断しています。そのため、令和8年度、9年度に部活動指導員を配置し、地域クラブ活動への移行の足がかりとします。令和10年度以降は、原則として地域クラブ活動に移行することから、生徒が参加するクラブに会費を支払い、その中で指導者の報酬も含めて運営していただく形を想定しています。</p> |
| 武内委員 | <p>現在の状況を踏まえると、部員数の減少や合同チームの必要性など、現在3人しかいない部活動や、大治町との合同でないと成立しない状況などが挙げられます。これらの状況下で、適切な会費設定と運営の持続可能性を確保することは非常に難しい課題です。</p> <p>令和9年度までは月額1,000円の会費で運営できていたとしても、令和10年度以降は月額5,000円など大幅な会費の値上げが必要になる可能性があります。各クラブが独自に会費を決定できるようになれば、このような大幅な変更が起こりうると考えられます。</p> <p>令和9年度から令和10年度への変化が非常に大きくなり、生徒や保護者に大きな負担を強いる可能性があります。また、採算の見込みが立たないクラブ活動が消滅してしまう可能性も懸念されます。これらの課題に対して、今後の会議でこれらの点について議論を深めていただけるとありがたいです。</p> |
| 教育長 | <p>ありがとうございました。そのあたりのことは見込んでおりますし、消滅して</p> |

| | |
|------|---|
| | いくところは出てくる可能性は高いと思います。 |
| 内山委員 | <p>生涯学習の観点から、主に文化部の課題について述べさせていただきます。</p> <p>現在の文化部活動を見ますと、吹奏楽部は甚目寺公民館大ホールを土日や夏休みにほぼ毎日使用して練習を行っており、今後も活動が継続されると予想されます。一方で、コンピューター部、家庭科部、美術部、創作部、ペーパークラフト部、園芸部などは、現在土日に活動を行っていないようです。これらの部活動に対する受け皿の必要性について疑問があります。</p> <p>特に吹奏楽部については、活動費用の面で大きな課題があります。楽器一つを取っても、10年ほど前の経験では20～30万円程度の出費が必要でした。地域展開に際し、学校の備品を借用できるのか、あるいは生涯学習課で新たに楽器を購入し、甚目寺公民館で保管する必要があるのか、検討が必要です。また、平日と土日の活動場所が異なる場合、楽器の移動方法も課題となります。特に、甚目寺中学校以外の学校では、どうすればいいのか、頭の痛いところです。</p> <p>また、近隣の稲沢市や愛西市でも同様の状況だと聞いています。文化部、特に吹奏楽部の地域展開については多くの課題がありますので、お知恵を貸していただきたいな、というか、お力を貸していただきたいなと思っております。</p> |
| 林委員 | <p>スポーツ課では、スポーツ協会やスポーツ少年団の団体を所管しておりますが、どのタイミングでこういう照会をしていけばいいのかを、今後ご指示いただければと考えております。</p> |
| 教育長 | <p>委員の皆様から一通りご意見をいただき、ありがとうございました。予定の時間を少し超過していますが、追加のご意見や補足はございますか。特にないようでしたら、次の議題に進めさせていただきます。</p> <p>それでは、その他の議題に移ります。まず、鈴木委員から先進事例として大府市等での取り組みについてお話ししたいと思います。</p> |
| 鈴木委員 | <p>以前にもお話ししましたが、最近の状況を中心にお伝えします。提供した資料は、私のゼミ生が大府市と名古屋市の地域展開を比較研究したものです。コーディネーターとして1年半が経過し、大府市では8月から本格的な地域展開が始まりました。</p> <p>資料の要点をいくつか挙げますと、月額2,000円の参加費について、就学援助家庭は免除されています。そうでない家庭でも経済的に苦しい家庭はあると思いますが、把握しきれいていません。現在、約1,400人中1,212人が地域クラブに参加しており、参加率は85～90%程度です。そこまで金額面で拒否されていないと考えます。また、指導者には必ず研修を受けてもらい、修了証が必要です。対面研修やオンライン配信など、柔軟な研修方法を採用しています。</p> <p>子どもたちの満足度調査が今後の課題です。競技志向の子どもと楽しむだけの子どもの両方がいるため、それぞれのニーズに応える必要があります。参加費の値上げや市の負担増加の可能性はありますが、大府市としては月額2,000円を維持したいと考えています。また、様々な指導者と出会うことで、子どもたちが多様な学びを得られる可能性があります。</p> <p>今後の課題としては、市内大会の教員なしでの運営、ガイドラインと危機管理マニュアルの作成、定期的な会議、地域クラブ連絡協議会、運営委員会の継続、大学と地域の連携、学生サポーターの活用、そしてスポーツを通じたセルフマネジメント能力の育成が挙げられます。</p> |

| | |
|------|--|
| | これらの課題に取り組みながら、今後もコーディネーターとして活動を続けていく予定です。子どもたちがスポーツを通じて競技力向上だけでなく、自己管理能力も身につけられるような環境づくりを目指していきたいと考えています。 |
| 教育長 | 続きまして、山本委員が様々な自治体の部活動地域展開に関わっておられますので、他自治体の取り組みも含めて、お話いただければ幸いです。 |
| 山本委員 | <p>ポイントを絞ってご説明いたします。今年度は埼玉県、茨城県、福岡県、奈良県のコーディネーター、アドバイザーを担当しています。</p> <p>県内の支援実績としては、43の市町村と情報交換を行い、17の自治体のご支援に入っております。また、全国の自治体からヒアリングした地域展開の型を整理したところ、全国的に様々なパターンがあることがわかりました。あま市は個別クラブの認定と委託団体管理のハイブリッド形式を検討されているようですが、どのパターンでも共通する課題として、地域の保護者の理解を得ることが大きなハードルとなっています。解決策としては、粘り強く継続的に説明会を開催し、対面でのコミュニケーションを重視することが重要です。豊田市の事例では、3年前から保護者・地域向けの会議を開催し、課題の共有と危機感の醸成に努めています。</p> <p>熊本県玉名市では、定期的な説明会やディスカッションの場を設けることで、不安解消や誤った情報の拡散防止に効果を上げています。</p> <p>もう一つの共通課題は、安心安全で効率的な運用の仕組み整備です。ICTの活用が有効で、国の補正予算でもICT整備に予算がつけられています。</p> <p>その他、指導者間の連携、出欠管理、会計管理、人材バンク、施設管理などのICTソリューションを紹介します。県の人材バンクにはあま市で144名の登録があり、今後の活用が期待されます。</p> <p>最後に、ICT管理システムや施設整備の概要を記載しています。必要に応じて、より詳細な事例も共有できたらと思っています。</p> |
| 教育長 | その他、事務局何かありますか。 |
| 事務局 | <p>今後のスケジュールについてお伝えいたします。</p> <p>あり方課題別検討委員会に関して、現在実施中の部活動地域展開・地域連携のモデル事業は、令和6年度から令和8年度までを実施期間としています。来年度はこのモデル事業の総括として会議を開催する予定ですので、引き続きご協力をお願いいたします。</p> |
| 教育長 | その他ご質問はありますか。 |
| 石垣委員 | <p>先ほど令和8年度の卓球部に関する話題が出ましたが、これに関連して質問があります。</p> <p>美和中学校と甚目寺南中学校の柔道部については、保護者向けの説明会が開催されたと伺っています。卓球部の地域展開を進めるにあたり、同様の保護者向け説明会の開催予定はありますかでしょうか。</p> <p>もし予定が決まっている、あるいは検討中であれば、その内容についてお聞かせください。</p> |
| 教育長 | <p>卓球部の保護者向け説明会については、各中学校と日程調整の可能性を含めて検討し、後日改めてご連絡いたします。</p> <p>他にご質問やご意見はございませんでしょうか。特にないようでしたら、これもちまして小・中学校あり方課題別検討委員会を終了いたします。</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>本日いただいたご意見は、本日付の報告書として教育委員会に報告する予定です。また、会議の内容をまとめた議事録を作成し、市公式ウェブサイトで公開いたします。</p> <p>皆様、お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。</p> |
|--|---|